

基本情報

時間割コード/Course Code	211384
開講区分(開講学期)/Semester	春～夏学期
曜日・時間/Day and Period	水 5
開講科目名/Course Name (Japanese)	比較文明学特別演習I
教室/Room	教員研究室
開講科目名(英)/Course Name	Comparative Study of Cultures Seminar I
定員/Capacity	0
ナンバリング/Course Numbering Code	21HUSC7A114,21HUSC7D302
必修・選択/Required/Optional	
単位数/Credits	2.0
年次/Student Year	1,2,3年
分野/Field	
担当教員/Instructor	野尻 英一

詳細情報

講義題目/Course Name	ヘーゲル『精神現象学』を読むI
開講言語/Language of the Course	日本語・英語
授業形態/Type of Class	演習科目
授業の目的と概要/Course Objective	<p>本演習では、現代人間学および比較文明学の基礎演習のために、西洋哲学史上の最重要古典の一つであるヘーゲルの『精神現象学』の講読と議論を行なう。</p> <p>ヘーゲルの哲学は、現代における人間研究と現代社会を特徴づける近代性についての研究の双方にとって、後戻り不可能な決定的な洞察をもたらしたと言える。特に二〇世紀に入ってパリ高等研究院でアレクサンドル・コジューヴが行なったヘーゲル講義が衝撃をもって迎えられ、その後20世紀後半にかけて興隆したポストモダン思想とよばれる諸潮流の原点となったことは銘記すべきである。現代の大学院生は、自立した思想の確立のためには、ヘーゲルとポストモダン思想の双方を読みこなすことが求められている。</p> <p>本演習では、徹底的にヘーゲルのテキストを読み込むことを通して、その基本ロジックを掴むことを目標とする。受講生はドイツ古典思想が専門である必要はなく、むしろ現代的な関心を持ち、自身の研究の切り口からヘーゲルを読み、自分なりの接点を掴み、議論することを期待されている。</p> <p>演習ではテキストのロジックを理解することと議論することを重視する。語学の訓練は目的としないのでいわゆる訳読は行なわない。ただし理解を深めるために、ドイツ語原文や英訳を適宜参照する。</p>
学習目標/Learning Goals	<p>①ヘーゲル哲学の基本ロジックを理解し説明することができる。</p> <p>②ヘーゲルと自分の研究テーマとの関連を見つけ、論じることができる。</p>

履修条件・受講条件/Requirement / Prerequisite	
授業計画/Class Plan	
授業外における学習/Independent Study Outside of Class	演習前に、演習で議論する範囲を集中して読む時間を少なくとも一時間は取ること。このルールは厳守である。
教科書・教材/Textbooks	標準テキストとして、Suhrkamp版のPhänomenologie des Geistesと金子武蔵訳『精神の現象学』（岩波書店）を用いる予定。ただしすでに他訳書を持っている場合はそれでも対応可。テキストについては、初回授業で説明する。
参考文献/Reference	
成績評価/Grading Policy	授業への参加態度60%、学期末レポート40%
コメント/Other Remarks	教室は「比較文明学演習室」（東館203）を予定。ただし人数多数の場合は、変更する場合もある。変更の際は、KOANを通じて連絡する。
特記事項/Special Note	演習は日本語による発表と議論により進めるので、中程度の日本語力は必要。ただし英語による質問、発言、議論は歓迎する。テキストのドイツ語原文と英訳も配布する。
受講生へのメッセージ/Messages to Prospective Students	<p>【海外からの留学生へ】</p> <p>本演習は基本的に日本語で行なうが、テキスト『精神現象学』については、英訳、ドイツ語原文も配布し参照しながら行なう。外国からの留学生は、議論と教員の解説についていくために中程度の日本語力があることが望ましいが、テキストは英語やドイツ語で読むことはできるし、また英語での質問、議論は歓迎する。日英双方の言語に対応した演習とするので、留学生も積極的に履修し、議論に加わってほしい。</p>

学生への注意書き